



題字 井口 文章
再刊 第344号
印刷・発行 錦城高等学校新聞委員会
編集室 2020
みんなでつくる 錦城高校新聞

一面…今週水曜日は生徒会選挙！
合唱祭中止が決定…どうなる代替行事
二面…10月26日から教育実習！
錦城出身の実習生の先生方に取材

未来を背負う5人の候補者

今年は今役職が信任投票

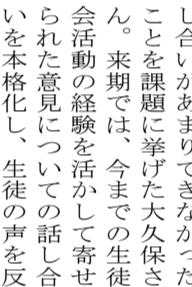
11月4日(水)に生徒会選挙が行われる。今回は新型コロナウイルスの影響により、演説は放送で行われることとなった。各役職につき候補者が1人のため、全て信任投票となる。今号では、候補者5人に立候補した理由や選挙の意気込み、当選後の公約などについて取材した。(編集部共同取材)

生徒会長候補

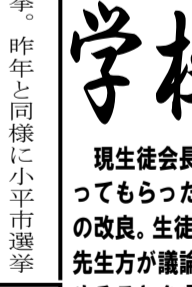
セブン自販機の設置とスマホ利用に関するルールの透明化をしたいという理由から生徒会長に立候補した中村心咲さん(2F)。「生徒の要望に



合わせて商品を入れられるようにしたセブン自販機を設置することが目標です。スマホのルールについては、行事の時には写真撮れるようにするなどのルールにメリハリをつけられるようにしたいです」と話す。



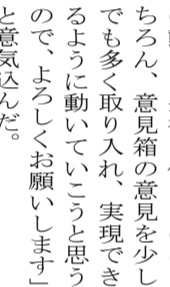
公約は、スマホに関する校則の変更。藤田くんは「就任したら休み時間や部活のときにスマホを使用できるように、校則改正に尽力します」と意気込み。また、藤田くんは自身のアピールポイントについて、人前でのアドリブが得意なところだと語った。



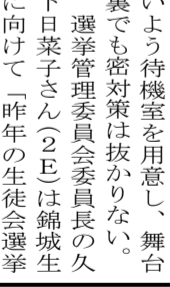
藤田くんはよく食堂を利用しており、一番好きなメニューは「熱々担々麺」。また自身の趣味であるアニメや漫画ではマイナーなのが好きだと言った。

生徒会副会長候補

生徒会副会長に立候補したのは藤田和望くん(1F)。出馬した理由を、厳しさが昔と変わらず、他校に比べて融通が利かない錦城の校則を改正するためだと話す。具体的な



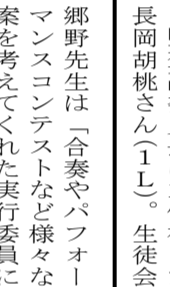
最後に「窮屈ではない学校生活を送れるように、そして息抜きと勉強のメリハリをつけるための学校をつくってほしい」と抱負を語った。



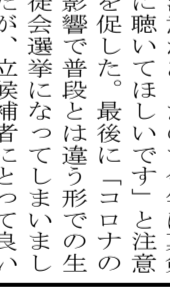
藤田くんは「熱々担々麺」。また自身の趣味であるアニメや漫画ではマイナーなのが好きだと言った。

監査委員長候補

監査委員長に立候補した大久保摩美さん(2E)は、中



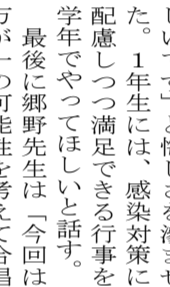
郷野先生は「合奏やパフォー



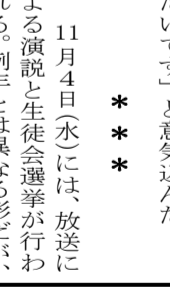
郷野先生は「合奏やパフォー

合唱祭の中止が決定

合唱祭の中止を受け生徒指導部主任の郷野康輔先生と合唱祭実行委員会委員長の



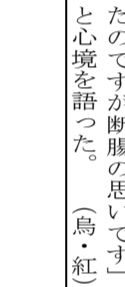
郷野先生は「合奏やパフォー



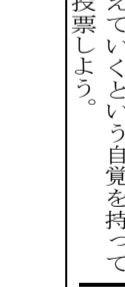
郷野先生は「合奏やパフォー

悲しみを語る実行委員長

大田くんは「予測していたことではありましたが、大きな行事である合唱祭が中止になると聞き、悲しい気持ちになりました」と肩を落とす。委員会では、何回も案を出し開



大田くんは「予測していたことではありましたが、大きな行事である合唱祭が中止になると聞き、悲しい気持ちになりました」と肩を落とす。



大田くんは「予測していたことではありましたが、大きな行事である合唱祭が中止になると聞き、悲しい気持ちになりました」と肩を落とす。

私たちに清き一票を



生徒会選挙に向け、昇降口付近で候補者が朝8時から8時15分の間に挨拶運動を行っている。期間は、10月28日から11月2日までの日曜日を除いた4日間。この運動は、新型コロナウイルス感染予防のために中止となった立会演説会に変わって、候補者の顔を直接見る機会をつくることを目的としている。期間中、登校する錦城生に向けて声を張って挨拶する候補者達や、挨拶を返したり手を握って応えたりする錦城生の姿が見られた。挨拶運動を終えた後、インタビューに応じてくれた候補者達は「応援よろしくお願いします」と錦城生に呼びかけた。(千)

学校改革に邁進した1年

現生徒会長の橋本太朗くん(3A)に今期の生徒会の活動を振り返ってもらった。橋本くんの公約はいくつかあり、一番に挙げたのは制服の改良。生徒会が出された案は既に代議員会で承認されており、現在先生方が議論を行っているという。そのほか、生徒会の発信力を高めることを公約に掲げていた。「前期の生徒会では2回しか発行できなかった生徒会報を、今期は10回発行することができました」と橋本くんは笑顔で話す。それに加え、休校期間前は各クラスに1枚配布し掲示していたが、今は1人1人に配っている。橋本くんはこの1年間で「新型コロナウイルスの影響で任期の4分の1である3ヶ月が減ってしまいました。それがなければ、制服の改良や生徒会の発信力をさらに高めることができたと思うので残念です」と振り返った。今期は前期の生徒会よりも学校に関する改革を行うことができたという。前期までの生徒会には有志の一般委員の募集を積極的には行ってこなかった。しかし、選挙で選ばれる人々だけの活動では、全学年の意見を取り入れることができない。そのため、橋本くんは生徒会長になってからすぐに一般委員を募集し始めたという。「今までは生徒会には書記や会計の仕事がありませんでしたが、一般委員にそれらの仕事をやらせようなど、生徒会の組織自体も変えることができました」と橋本くん。また、次期生徒会に向けて「変えたほうが良いと思ったものはどんどん変えていってください。生徒会としての考え方の幅を増やして、錦城生の意見をより濃く反映してほしいです」と橋本くんは語った。最後に、橋本くんは「1年前に生徒会長として選んでいただき、そして生徒会にご協力していただきありがとうございました。新しく選ばれる生徒会の活動に耳を傾けたり、意見を言ったりして注目してほしいです」と感謝の気持ちを伝えるとともに錦城生へ呼びかけた。(紅)



「今期は学校全体を改革する活動をたくさん行えたと思います」

むらさき草

コロナ禍で会話をするとき、マスクで相手の表情が上手に読み取れない。オンライン会議で画面越しの発言を理解したか、されたかが分からなく不安。他人との距離を測るのが難しい。約8ヶ月前から世界を翻弄し続けているウイルスの影響で、以前より人とのコミュニケーションが難しくなっていると思う。特に、外出時に着用するマスクによって、その人の感情が一番よく分かる「表情」というツールが隠されてしまっている。例年の新学期、初対面のクラスメイトと距離を縮める際には、相手の表情から「笑顔が素敵だな」「私と仲良くしたい」と思っているな、といった好意を感じることができた。しかし今年には新しいクラスメイトの素顔が見えず、距離を縮めるのが難しかったように感じる。「仲良くしたい」という思いを表情で表現しても、相手に伝わらないことがもどかしかった。以前漢文の授業で孔子について学んだことをきっかけに「温故知新」という文章を読んだ。文中の「辞は達するのみ」という言葉から「何事も心の中で思っているだけでは相手に伝わらない、言葉にして伝えることが大切だ」ということを読み取った。自分では伝わっていると思っていることでも、相手には伝わらないことがある。そんな時に思いをストレートに、正確に伝えてくれるのが「言葉」だ。この文章を通して改めて思った。錦城に入學して1年と7ヶ月が経ち、気が付けば高校生活の折り返し地点。多くの大切な友達、編集部の仲間、先生方、家族のおかげで毎日楽しく過ごせている。コロナ禍で生活しづらくなった一面もあるが、これからは相手への感謝の思いをマスクによって隠された表情だけではなく、言葉で伝えたいと思う。(鷹)

11月4日(水)には、放送による演説と生徒会選挙が行われる。例年とは異なる形だが、真摯に候補者の意見を聴き、自らの一票が今後の錦城を変えていくという自覚を持って投票しよう。